

初の種苗放流イベント

ヒラメ5000尾分を支援

横浜丸魚(小島雅裕社長)は14日、横浜市金沢区の横浜ベイサイドマリナで、豊かな海づくりや水産資源を積極的に増やす取り組みの一環で、同社として初めて種苗放流イベントを実施した。現地を訪れた役職員15人のうち役員8人が体長5センチ前後のヒラメ種苗をバケツを用いて海に放流したほか、横浜丸魚が資金援助した5000尾含む、4万8500尾が活魚車からポンプとホース伝いに海に移出されていく様子を見守った。

横浜丸魚

浜港埠頭(横濱)、「JF横濱市漁協の3者によるヒラメ放流の取り組みに合流することを決めた。

放流初体験とあつて、膨大な数の種苗にまず圧倒されていたほか、次々ホースから海に送り出される岸壁下の海が種苗で埋め尽くされていく様子に「わくわくする」「新鮮な気持ち」と高揚感を覚えていたようだった。最後にイベントに参加した全員で記念写真に納まった。

漁獲した水産資源を利

用する水産卸というビジネス。この日は県栽培漁業協会の扱いで1万尾、横浜港埠頭(横濱)で3万尾、横浜市漁協で3500尾の種苗をそれぞれ海に放った。

横浜丸魚が本社を置く横浜市中区中央卸売市場本場では、水産部関係者でつくる自治会が11月に市内にある巨大鮭塚を訪ねて魚族の魂を慰め、商売繁盛を祈願する「鮭塚供養魚まつり」を行っている。

に入った11月は神奈川県内でも初めての種苗放流には適さない時期であることから、まず種苗放流の盛期に横浜丸魚単独で放流イベントにチャレン

スし、今後の取り組み拡充に向けた糸口を探ることになった。

自治会として祭事をさ

らに拡充させる目的で同

時に種苗放流を実施できないかの検討作業に着

手。ただ、水温が低下期



ヒラメ種苗をバケツから海に放った小島社長(手前)ら横浜丸魚の役員